

令和5年度岐阜県美術館協議会 議事要旨

1 日 時：令和6年2月14日（水） 15：00～16：05

2 場 所：岐阜県美術館 特別応接室

3 出席者：【委員】

村瀬会長、矢島委員、猫田委員、有賀委員、小野寺委員、地守委員、河西委員、熊崎委員、所委員、岸委員、安田委員

（欠席：林委員、向田委員、篠田委員、瀬古委員）

【県】

美 術 館：日比野館長、小野副館長、正村副館長、青山課長、竹内課長

水上係長、廣江係長、福井係長

文化伝承課：高井課長、蒲係長、北川課長補佐

4 議 題：令和5年度の美術館事業について

令和6年度の美術館事業について

5 議事要旨：

（事務局） 令和5年度及び令和6年度の美術館事業について説明。

（有賀委員） 走泥社展の観覧者数が少ないが、当初の目標はどれくらいだったのか。また、目標値が詳細であるが、どのようにして目標値を設定したのか教えてほしい。

（正村副館長） 4,000人程度を見込んでいる。資料に記載されているのは、12月までの数値となっており、見込みより少ない。例年12月は、第2週から急激に入館者数が減る傾向にあり、加えて正月に震災があったことも影響している。1月末から2月にかけて、毎週美術講演会を行うほか、アートツアーなどイベントを実施しており、今後入場者数も伸び、おそらく目標に達するのではないかと考えている。目標値の設定は、過去に開催された類似展覧会の実績等を基に算出している。

（熊崎委員） 昨年のこぐまちゃん展は、たくさんの小さな子どもが生き生きとした目で観ており、これまでこれほど子どもが興味を持って観ていた展覧会はなかったのではないかと。美術館に行っていない子どもが多い中、こういった展覧会があれば美術館に親しみを持つのではないかと興味を持った。

館長が目指す文化体験を通して健康状態をよりよくする文化的

処方、「well-being」は、新しい分野で非常に面白いと思った。岐阜には全国のシェア 7,8 割を占める掛け軸などちょっと特殊なものがあるので、こういったものも心に癒しを与えるひとつの絵画として国民文化祭で紹介してほしい。

(日比野館長) まさに、文化的処方とは、日常の中の美にあり、それが文化的処方の根本的なところだと思っている。岐阜には、芸術に接する土壌や文化があったということもしっかりと国民文化祭において発信していきたいと思う。

(岸委員) 私は、教育の立場から展覧会を観させてもらっている。「展覧会を準備してます、展。」は、視覚だけではなく、知的な部分も刺激を与えるような展示が非常に興味深い。また、「アーティストインミュージアム」では「ひと」すらも展示にしてしまうという面白さがある。

観て育つとか、関わっていることで伝わっていくことはとても大きいことだと思う。特に岐阜県美術館では、アートコミュニケーターとして、施設が人を育てている。「～ながラー」が「湊カラー」になるという、教育機関では、なかなか社会人の育成が難しいなか、とても面白い試みだと思う。まさに国民文化祭は、「人が育つ」成果を見せていくところ。人を育てるという意味で、この「湊カラー」が今後どういう展開をしていくのか、また、活動が市内、県内に広がった際の構想もお聞かせ願いたい。

(日比野館長) 東京藝大、東京都美術館とで、一般の人を都民目線で活動する「アートコミュニケーター」として育成する事業を 15 年前に始めた。アートコミュニケーターの中には、美術館で活動したのち、自分の地域に戻り、美術館で学んだ知識を活かし、地域にある文化資源を広め、発信する活動を始めた人もいる。こういった東京都の成功事例は全国で実施されており、岐阜県美術館でも 3 年前にこの事業を始めた。さきほども申し上げた文化的処方を実現するためには、処方する人を育成しなければならない。これを文化リンクワーカーと呼ぶが、「～ながラー」を卒業した人たちを文化リンクワーカーとして育成していく事業を国民文化祭で実施する。国民文化祭が終わったあとも継続して実施していくよう県に働きかけていくつもり。企画や予算があっても、人材がいなければ継続していかないものなので、人材育成エコシステムを構築していきたいと考えている。

(岸委員) 供給できる子どもたちを育てていきたい。

(日比野館長) 大学と美術館だけが頑張っても継続していけないので、義務教育からの連続性が必須だと思っている。

(安田委員) 私は、陶芸家ですので、「走泥社」展をととても楽しみにしていた。京都でも拝見したが、岐阜の展示は企画展示だけではなく、常設展示も走泥社にまつわるような、走泥社から繋がっていくような作品の展示がされており、両方を楽しむことができた。岐阜県美術館ならではの展示がされており、同じ走泥社展なのに、全く違う展覧会を観ているような気持がして、美術館が違くと展示も違っているということに改めて気づけた面白い展示だった。

「展覧会を準備してます、展。」もすごく新しい側面の展示の仕方で美術館も行動展示をする時代がきた、作品を見せるだけではない違う切り口で作品・アートを感じることができるのは、とても面白いと思った。

監視員が神経質に監視していると感じるときがある。昨今、海外で美術館の作品にもものを投げつけるような行動があり、仕方がないことだと思っているが、岐阜県美術館では、監視についてこれからのように対応していくつもりか。

(正村副館長) 監視に関しては、監視員が適切な声掛けについて訓練等を実施している。突発的になにが起こるかわからないため、防犯・防災の訓練をしていかなければならないと思っている。地震・災害等が起こった際の訓練も非常に必要であると感じている。

(廣江係長) 防犯については、私たちも今一番の課題であると感じている。まず、監視員の研修強化が必要であると考え、防犯防災研修を来年早々に行う予定。また、起こりうることを想定するのは、非常に重要であるため、地震に関しては耐震型の建物に改修した。そのほか、照明器具、搬入システムの更新なども行った。

作品については、展示ケースをエアタイトケースに徐々に刷新している。また、額縁には、叩きつけても作品には影響がない低反射アクリルを導入するなどしている。そのほか、火災が起こった場合の消火方法は修復を前提とした初期消火対応とし、すでに作成している消火後の修復対応一覧表を基にすぐに修復できるようにしている。

(河西委員) 「走泥社展」や「円空大賞展」などとても質の高い展示をされているのはとてもありがたく、今後も継続して行ってほしい。岐阜県

の目玉となる展示から、私のような県民の作品などの展示もあり、バランスよく企画されており、「美とふれあい、美と会話し、美を楽しむ」が広がり始めていることを実感している。

私は、大学で美術教育を学ぶ学生を育てており、教育普及のギャザリングなど、子どもを育てる人たちの実践の場を提供いただくことにも感謝している。また、一般展示室（県民ギャラリー）を学生の作品展で利用している。美術館が改修されてから随分経っているので壁にシミがついたり、台座が古くなったりと一般展示室の維持管理には苦勞されていると思うが、維持するための継続した予算が必要なのではないか。照明も十分ではなく、LEDに刷新する時期にきているのではないか。

予算は企画展だけでなく、設備更新にも柔軟に使えるような制度が必要ではないかと思うが、どうか。

（小野副館長） 予算については、毎年要求しているが、県の財政状況も厳しく実現できていない。継続的に予算要求をし、改善していきたいと思う。

以 上